

栄光園だより
第98号
2015年1月30日発行
発行 社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
振込口座 01930-2-20748
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

いじめ

評議員 平野 紀美代



昔も苛める、虐められる、と云う言葉は使われていました。しかし、今はいじめられている…とは言わずに「いじめ」にあつていと云うように「いじめ」は立派に名詞として使われることの方が多くなりました。そして、この問題が新聞紙面、或いはテレビを賑わすことがあります。

いつ頃からこの「いじめ」と云う言葉を耳にするようになったのか？ 20年ぐらいい前？ いや、もっと前からでしょうか。

では、昔は全く「いじめ」はなかったのでしょうか。いゝえ、昔もそれらしき事はあったのです。私が還暦を迎えた頃でしょうか。その頃になって自分が女学校時代に今で云う「いじめ」にあつていたことに気付かされたのです。

私は戦時中、中国広東市の日本人女学校に通っていました。クラスは日本人と、当時日本の統治下にあつた台湾人が半々くら

いだったと思います。生徒たちは何のわだかまりもなく仲良かったと思うのですが、学校サイドは今にして考えるとやはり差別感情があつたのではないのでしょうか。それが原因だったのかどうかは分かりませんが、ある時期から私に対する「いじめ」が始まりました。朝、校門を入ると十人位の同級生がずらりと並んで、その内の一人(ボスのな人)が私を睨みつけるのです。この行為はある日突然始まり、毎朝続きました。どのくらい続いたのか記憶もさだかではありませんが、やがて敗戦を迎え学校も友だちもバラバラになつてしまいました。

今、考えますと、それを「いじめ」とは感じずに何故私がかんな目に合うのか、私の何処が悪いのだろうか？と自分を責める気持ちに落ち込んで行きました。しかし、私はそのことを一切両親にも姉にも教師にも云いませんでした。何故云わなかったのか今でもわかりません。言えなかったのです。朝、元気に家を出るのですが、学校が近づくにつれ足が重くなり、そのままどこかへ逃げてしまいたい思いました。

今、「いじめ」にあつている子どもが周囲にいないでしょうか。子どもたちは親にも教師にもそのことを言いません。親も教師も気付かないことが多いのです。昔の「いじめ」とは異なり、考えられない程の暴力、陰湿さがあり、全くの孤独を一人心に秘めて苦しんで

いる子どものことを思うと胸が痛みます。男の子が棒切れを振り回し、元気がいっぱい喧嘩し、擦り傷に赤チンをつけて、それでお終い！となつた昔は佳き時代でした。

先日、12月20日に栄光園のクリスマスマスタブ・祝会に初めて参加させて頂きました。子どもたちの一生懸命な舞台を楽しく拝見させて頂きました。お歌・可愛らしいお遊戯・聖劇…とご指導された職員の皆様、ボランティアの先生方のお働きに深く感謝いたします。

『あ、この子どもたちが神様に愛されて、みんな幸せになりますように、一人として「いじめ」などにあわないように』と祈りつつ帰路につきました。

もう一つ付け加えさせて頂きたいことがあります。私には生涯を通して大切な友人がおりました。私が「いじめ」の中におりました時に手を差し伸べ「あなたと親友になりたい」と云ってくれた人です。彼女は中国人の父と日本人の母を持つ人でしたが、戦後筆舌に尽くし難い苦勞の末に1990年頃にやっと日本人として帰国、それから10年後、やっと私たち二人は再会を果たしました。すっかり身体をこわしていた彼女ですが、子どもたちのために必死に生き抜いてくれました。しかし、一昨年1月、子どもや孫に見守られ、その生涯を終えました。納骨の1週間前に私は大阪・門真に向かい彼女のお骨を抱かせていただきました。

今であれば「いじめ」られている子と仲良くすると、たちまちその子が仲間外れにされ「いじめ」の対象にされてしまう…とあるお母様から伺いました。いつでも「いじめ」は一人対グループです。大人はすべての子どもたちの心に目を向けていきたいと願います。

不思議なことに、私は再会が許されるなら、私をいじめた一番のボスに会って手を取り合つて話したいと願っているのです。今の「いじめ」とは異なり、昔のそれはたわいもない可愛いものでした。

あけましておめでとう
おめでとうございます

いつも社会福祉法人栄光園
に対する格別のご厚誼を賜り、心から感謝いたします。
本年も相変わりにませ
ご指導・ご支援を賜りたく
お願い申し上げます。
2015年 正月

社会福祉法人 栄光園
理事長 友永 丈一

児童養護施設 栄光園
施設長 江口 敏一

乳児院 栄光園
施設長 熊谷登喜子

青山 保育所
所長 小久保次郎

野口 保育所
所長 本庄 智宏

職員一同

児童養護施設

クリスマス行事を終えて

心理士 井生 浩之

栄光園では、年間を通してたくさん
の行事が行われています。その最大と
も言える1つが「クリスマス祝会」です。
今回は、12月20日にありました。この
日のために練習に練習を重ね、本番で
は見事に演目をこなした子どもたち。
そして、それを終始支え続けた職員た
ち。さらに、演目時にあたたかいまなざ
しと惜しみない拍手を送り続けたご来
場者の方々。この子ども―職員―来
場者による三位一体で織り成した空間
および時間には、本当に感慨深いもの
がありました。また、演目後の食事会に
も予想を上回る参加者があり、気恥か
しさ半分嬉しさ半分の子どもたちでし
た。このこともあつてか、終了後の片づ
けを子どもたちが率先して行い、特に、
思春期の男の子たちの活躍には目を見
張るものがありました。今回も大成功
に終わっています。



別府中央ライオンズクラブ・ライオネスクラブ様・別府駐屯地自衛官様との餅つき

自衛官の方々と一緒に運動を、ライオンズクラブ・ライオネスクラブの方々も穏やかな会話で心の癒しをして下さいました。このような光景があるからこそ、子どもたちは「また来年も!」と思うのでしよう。おかげ様で、餅つきも大盛況でした。

このように栄光園の行事は、「支援者の方々の協力に支えられながら、主役である子どもたちが活き活きと参加し、職員がそれに寄り添っていく」形で成り立っています。子どもたちを育むパートナーとして、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

12月には本誌には記載しきれないほど、たくさんの方々から栄光園を訪問され、数えきれないプレゼントをいただきました。ご支援者欄へ記し、心からお礼申し上げます。



「この子は生涯、主にゆだねられた者です。」

サムエル記上1章28節
青山保育所 小久保次郎

サムエルは、母ハンナが祈りの中で神から与えられた祝福の子です。サムエルとは「その名は神」という意味です。主がかなえて与えてくださった子どもなので、ハンナは、サムエルを神に委ねました。神に仕える人としてサムエルは成長をいたしました。サムエルを育てた祭司エリが亡くなった後、サムエルはイスラエルを導く指導者となります。神の選びの不思議さと、神の命令にしたがう信仰者の決意を教えられます。

人は何故、自分が今の境遇に置かれているのか、疑問に感じる時があります。何故、どうして、何のために、どういう意味があるのか、それらを自分自身の運命に問うのです。しかし、これに答えられるのは、神のみです。問いと、それに対する神からの答えが聖書の中に貫かれています。宗教とは、人間のもつ、抱え込んでいる絶望、不安、恐怖に対する神からの応答の営みの繰り返しの事実の証言です。ハンナはなかなか子どもが生まれなかつたので、夫エルカナのもう一人の妻、ペニナから苦しみを受けました。ペニナからハンナは敵とさえ、見られていたのです。同じ妻同士でありながら、子どものいないハンナを、ペニナは、さげすんでいたのです。持つ者が持たざる者へ与える苦しみは、大きいのです。キリスト教では、人間の誕生とは神の使命を帯びてこの世に派遣されると教えています。神の使命を帯びてひとりひとり生まれてくるのです。人間の創造は最初の人間アダムが土(アダマ)の塵から創られたと創世記にあります。人間の創造の目的は、エデンの園の農作物を作り、守るためでありました。誕生する目的、生きる目的があることを神は人間に教えておられるのです。そして祝福されて人間は生まれてくるのだと聖書は私たちに教えています。かけがえのない人間の命が尊重され、その人生が祝福され、互いの人生の関わりが深められるように神は願っておられます。

ウエストホームの クリスマスメニュー

児童指導員 東條 岬

ウエストホームは男子棟で、現在大学1年1名、高校3年1名、1年1名、中学3年2名、1年2名の7名の子どものためのホームです。社会に出る時期を間近に控えた中高生が暮らしている



相撲の尾上部屋の皆様



日本競輪選手会大分支部様よりお菓子のプレゼント



釘宮様よりクリスマスプレゼント



ケイハア様よりプレゼント



楽天様よりプレゼント

ホームなので、将来を見据え、食育では、自分で調理が出来ることや健康を維持していくための食の知識を育むことを目標に掲げています。
今年度は、「健康を維持していくための食材の知識を習得し、調理することに関心を持ち、自立した食生活が営めるようになる。」という目標を掲げ、取り組んでいます。
12月は全体のクリスマス祝会を20日に行い、24日はホーム毎のクリスマス会で、「手軽に調理できる行事メニュー」をテーマにメニューを考えました。ほうれん草が入ったグラタンやピザ、ローストチキン、ポテトサラダでクリスマスらしい色鮮やかなメニューを作りました。調理に手間がかかるグラタンは、既製品のホワイトソースを使用し、手軽に調理ができる体験をする機会となりました。また、ポテトサラダやブロッコリーや、ミニトマトで立体のクリスマスツリーの形を

作り、クリスマスらしさを演出しました。見た目もクリスマスを意識して作りました。クリスマスらしい色鮮やかなメニューが食卓に並び、普段の食事とは少し違った楽しい雰囲気での食事となりました。
食後、子どもたちからほうれん草のグラタンについての意見があり、「ほうれん草は少なめで良かった。」等の感想がありました。子どもたち自ら、感想を出し合い、小さな失敗から学び、次につなげようとする意見が出たことが印象に残っています。同時に、食に対しての興味も深まっていることを感じる事が出来ました。この経験を生かして次回はおもしろいグラタンが出来上がることを楽しみにしています。
今回は、既製品を利用し、手間のかかるメニューも簡単に調理できることを子どもたちに伝えられました。手軽にできるメニューでの成功体験を増やし、食へ



の興味関心を高めていき、これから社会に出て困らない食の知識・技術を育んでいきたいと考えています。
また、今後は食材価格や選び方を学んで、予算内で食材を無駄なく使用する工夫や体調が悪い時の食事メニューなどの生活する上で必要な知識を身に付けていただきたいと思います。

乳児院

新しい年が始まりました。今年もかわい子どもたちの笑顔がたくさんみられるように、頑張っていきたいと思えます。

ゆきやこんこん♪
あられやこんこん♪



12月は別府も何度か雪が積もりました。乳児院の子どもたちのほとんどが、初めての雪です。職員がバケツに雪を入れて見せると、おそろおそろの手を出してみる子や勢いよくわしづかみをしてあまりの冷たさにビクビクしている子や皆の様子を遠くからじっと見ている子など様々な反応を見せてくれました。ぞうグループの子どもたち(2歳児)は庭に

出て、雪の上をそーっと歩いていました。めったに経験できない貴重な時間を楽しんでいようでした。今度また積もったら、みんなで雪合戦しようね。

声かけの大切さ

昨年9月から毎月、別府大学短期大学部の相浦雅子先生による「保育講座」をスタートしました。

というのも、自分たち職員はできていると思っても、果たして子どもたちはどのように感じているのだろうかというところが気になってきたことと、子どもの成長に繋がるより良い関わりを学ぶためです。

先日の「声かけの大切さ」については、乳児院の子どもたちは24時間施設で生活をしているため、「当たり前」の普通の生活を体験することが難しいので、意図的にイメージし、意識的な会話をする必要がある。特に、集団保育の場合のような号令的な声かけではなく、子どもが自分は大事にされているという実感を持たせるために、発する側の気持ちを込めた(丁寧で笑みのある)生きたことばを子ども一人ひとりにかけることが大切。それには、子ども一人ひとりに合ったことばを選び、大事にし、蓄え、そして応答的な関わりをしていかなければならないということも学びました。

(今後は、計画→共通理解→実践を行っていく予定になっています。) 私たち職員は、日々子どもたちの傍らで職員同士の何気ない会話や業務報

告などをしており、子どもは大人の表情や声のトーン等で「いつもと違う!」ことを敏感に感じ取ったりしています。大いに反省しなければなりません。今後、私たち職員は常に「子ども」を意識し、その子にあったことばで「大事にされている」実感を持たせ、子どもが安心できる会話および生活の場づくりが心がけていきたいと思います。

青山保育所

鬼ごっこする人
この指とくまれ!



以前は園庭に出ると仲良しの友だちと2人で遊ぶ姿が多かったのですが、満4歳を過ぎた子どもたちがクラスの中の2と3分の2となったこの頃のきりん組では「鬼ごっこする人この指とくまれ」「花いちもんめしよう」「ころがしドッジしよう」と言つて友だちを誘い5〜6人で一緒に遊ぶ姿が見られる様になり友だちの輪がひろがってきました。

「仲間入れて」「いいよ」という会話を中心に友だちが集まり、遊びのルールも「ボールが当たったら線の外に出るんで」(転がしドッジボールの時)と言つて遊びに加わった友だちに伝えたりし

て簡単な遊びの約束をお互いに理解し、自分たちで積極的に遊びを進めていく姿に、私たち保育士は仲立ちをしながら感心しています。子どもたちは友だちと共感しながら遊びを展開していく楽しさを実感しているようです。子どもたちの自主性や自発性が着実に芽生えて、友だち関係も培われています。このことを心から嬉しく思っています。

懐かしい顔

11月、12月と青山中学校の生徒さんが保育体験学習として保育園に来て、園児達に絵本の読み聞かせをしたり、手作りのフェルトマスコットをプレゼントしてくださいました。お隣の中学校ということで生徒さんの中には青山保育所卒園生も数名おり、懐かしい気持ちになりました。また「将来は青山保育所の保育士になりたい!」という夢を抱いている卒園生もおり、そのように思っていたらいいことをとても嬉しく感じました。長い人生、保育所時代のことを記憶している人は少ないでしょうが、保育所って居心地の良い所だったな...好きな先生がいたな...と何となくでも良いので子どもたちの片隅に残ってくれると私たち保育士も嬉しいなと思います。

クリスマス会楽しかったね

クリスマス会当日は朝からサンタさんの話で大興奮の子どもたち! 催し物の保育者の劇や5才児の合奏が始まると

椅子に座って集中して見ていました。美味しいバイキングランチに食欲も増していつもより食べっぷりが良かったです。また、おやつ時にはサンタさんがお菓子のプレゼントを届けてくれました。ご家庭でもサンタさんからのプレゼントが届いた様子で25日の朝は登園後、興奮気味にその報告をしていた子どもたちでした。クリスマスには子どもたちの幸せを願う大人の温かい心が子どもたちに伝わっていくことを願っています。



偕楽園へ行ってきたよ!

偕楽園という老人ホームのクリスマス会にぞう組5歳児が招待され、参加してきました。子どもたちはサンタ帽を被り、この日までにたくさん練習をしてきたクリスマスの歌をプレゼントしま



した。少し緊張気味の子どもたちでしたが、歌い終わった後、おじいちゃんおばあちゃんたちから拍手をもらい、とても満足そうに達成感も味わったようでした。また、まっぼっくりで作ったツリーのプレゼントもしてきました。おじいちゃん、おばあちゃんとの交流はとても貴重な経験になったようです。

お餅つき

1歳児のお友達はエプロンと三角巾を持ってきてもらい、お餅つきに参加しました。エプロンをつけて準備すると気持ちも盛り上がり、「みて〜」と保育士に可愛いエプロン姿を見せていました。最初はお友達がお餅をつく様子を見ました。いざ自分たちの番になると、緊張した様子でしたが、保育士と一緒に

に杵を持って練習通り、上手に「べったんこ〜」と言いながらお餅がつけましたよ。丸める作業は、練習の時に使っていた小麦粉粘土と感触が違ったので、手に乗せたままジツとしている子もいましたが、丸めたりひっぱたりして楽しんでいました。0歳児のお友達はテラスに座って、お兄ちゃんやお姉ちゃんがお餅をつく様子を見ていましたが、「べったんこ〜」と言ったり、手を叩いたりしてよく見ていました。0歳児のお友達は雑炊でしたが、つきたてのお餅は、『雑煮きなこ餅』にして食べました。「おいしい♪」と良く食べていました。でも1番好きだったのは…味見で食べた蒸したての餅米でした。

楽しく餅つきに参加できた子どもたち。これからも色々な行事を通して、様々な経験をしてもらいたいと思います。



野口保育所

秋から冬にかけての行事を、少しずつですが紹介します。

親子バス遠足

食育の一環として6月に3・4・5歳児と一緒に農業文化公園にて芋の苗植えをしてから4ヶ月…。親子や友だちと一緒に大型バスに乗って芋ほりに行きました。大きいバスにも大興奮の子どもたちでした。公園に着いてからは、0歳児の小さな園児は職員が作った紙のお芋を持ってみたり、旗を持って芋ほりの応援をしていました。1歳〜5歳児の子どもたちは芋ほりを経験し、手や顔を真っ黒にしながら楽しんでいました。その後は公園で遊んだりお弁当を食べたりと天気にも恵まれ楽しい1日になりました。

保育参観



芋ほりの時に収穫した芋を使って「親子でクッキングをしてみよう」と初の試みをしてみました。

また、食育活動をたくさん経験してきた子どもたちの様子も見てもらいたいとの私たちの思いから、4歳5歳児は包丁を使って野菜を切り「さつまいもカレー」を...3歳児はピーラーを使って野菜の皮をむき「野菜サラダ」を作りました。1歳2歳児はさつまいもを絞って「茶巾しぼり」を作りました。

0歳児のお部屋では芋ほりごっこをしたり、他のクラスのクッキングしている様子を見に行き雰囲気を楽しんでいました。

みんなで作ったカレーライス・サラダ・茶巾しぼりは格別のように、子どもたちや保護者の方もかわりを楽しりと美味しそうに食べていました。

保護者の方々の協力も得て、いつもと違った保育参観が出来ました。

もちつき



毎年恒例の「餅つき」...今年はお父さんが手伝いに来ていただきました。少し小雨が降ったりやんだりでしたが、子どもたちはもち米が餅になるまでを目を丸くさせながら真剣に見ていました。

お友だちやお父さんたちが餅を搗いていると大きな声で「ぺったんこ〜ぺったんこ」と声をだしたり「お餅を搗きましよ



〜ぺったんこ〜♪ お父さん頑張れ〜と歌ったり応援したり大忙しでした。味のついたお餅をたくさん食べた後、まるめたり...昔ながらの伝統ある餅つきを子どもたちと経験することが出来て、またひとつ楽しい思い出が残りました。

クリスマス会



子どもたちが、毎年楽しみにしているクリスマス会！ 保育室や廊下・窓に飾られたクリスマス一色の雰囲気にも子どもたちは毎日ルンルンでした。会では、保育士によるハンドベル演奏や劇を聴いたり見たり...毎年違ったクリスマス会に子どもたちは、次は何をするのかな？と目を輝かせていました。

各クラスでクリスマスランチを食べていると「メリークリスマス」とサンタクロースとトナカイが1人1人にプレゼントを配りました。近くにくるサンタクロースに少し緊張しながらも「ありがとう☆」と嬉しそうに受け取っていました。

その日のお迎えは「今日サンタクロースがきたんで〜」と興奮気味にお家の方に楽しそうに話しながら帰っていました。今回のクリスマス会も...大成功!!



保育コーディネーター研修を受講して

大分県知事認証：第1回保育コーディネーターの研修を昨年の5月から11月の半年かけて毎月1回研修レポート、11月には筆記試験と大変でしたが無事認定をいただくことが出来ました。

保育園だけでなく、地域も含め核家族化が進む現代、子育てに悩んでいる家庭、虐待、要保護、支援が必要な子どもや家庭への援助などを学び、他機関とつなぐ役目がコーディネーターになります。

簡単な事ではないですが、子どもたちや保護者の方々に少しずつでも支援できるように中心となり、職員で協力して頑張りたいと思います。



今年度も残り少なくなり1年を締めくくることがまだまだ控えています。子ども一人ひとりとしっかり触れ合い、子どもたちが毎日楽しく過ごせるように職員全員で頑張っていきたいと思えます。

本年もよろしくお願ひします。

所長 本庄 智宏

職員一同

キリスト教理念の実践について

児童養護施設 江口 敏一

栄光園がキリスト教の理念に基づく社会福祉施設であることは、地元の人々を始め国内外によく知られている事実です。

法人設立の動きは、1950(昭和25)年、戦後の混乱の中で日本女性と米兵の混血児が巷にさまよう姿に見かねた米国の宣教師キャザリン・ステイブンスが原資として当時の50万円を寄付されたことよって具体化されました。当法人は日本キリスト教団別府不老町教会の野町良夫牧師とその熱心な信徒小郷虎市・小福夫妻の祈りと実践が創立の起源となりました。創立者の熱烈なキリスト教信仰がなかったならば、今日の栄光園は存在しなかったでしょう。信仰による愛の奉仕、献身、熱意、豊かな想像力と創造性、慈愛、無私な心と祈り、神への服従と隣人愛があつて、その実践としての社会福祉事業がはじめられたのです。これは善行を積んで自分の浄福の達成を願うという聖なるエゴイズムとも異なりますし、ましてキリスト教勢力の拡大を図るといふ十字軍的な発想でもありません。信仰による使命感が創設者たちをつき動かして、行動に駆り立てた結果が事業の形となったのです。

特定の宗教上の信念に基づき始められた社会福祉事業や教育の事業が、憲法による信教の自由の保障の元で、今日公共性の高いサービスを提供しているのは周知の事実です。

創立62年を経た栄光園が、今後も社会福祉事業を継続して提供し続けるには、創立時のキリスト教理念を堅持する意義を常に考え、深める必要

があります。

キリスト教の理念を掲げるなら徹底してそうすべきです。中途半端なことはしないほうが良いのです。聖書にもあるとおり、「塩に塩味がなければ、その塩は何によつて塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。」(マタイ5:13)からです。キリスト教社会福祉事業の特色は、神を仰いでそのみ許に立ち返りつつ、人と交わり、人々を踏みつけ、己が身を低くして奉仕することがその精神でありましょう。神が救い主イエス・キリストにおいて身を低くして人を高く押し上げてくださったので、人も自己を低くして神中心、利用者中心に生きることができる自由さが与えられたのです。気高さと自己放棄の二面が一体になったものがキリスト教信仰と精神の核心だと思ひます。

このような、神から人へ人から神への応答が生きていきと保たれる活動体、運動体がキリスト教社会福祉事業の中核であります。そのためには、求心的運動としての礼拝、祈り、学びと黙想、教えと布教があり、遠心的運動としては常に神が愛するために創造された利用者中心の支援と地域の社会福祉向上の取り組みを飽くことなく追求する社会福祉実践があるのです。

キリスト教の理念を堅持することは、独善的であることとは正反対に自己を開いて受け入れることであり、周りの人にもごく自然に神の恵みに与つていただくことなのです。

栄光園

自立進学資金

栄光園ファミリークラブ

栄光園では、社会に出てからもがんばって自分が信じた道を進めるようにと願い、高校に進学できるようにと力を注いできました。最近では、中学に通っていた子どもたちのほとんどが高校へ進学できるようになりました。子どもたち自身の力と職員たちの見守り、ご寄付の応援があつたからです。

今は全国的に高校を卒業すると2人に1人は大学に進むようになりまして、けれども児童養護施設に暮らす子どもたちが大学に進めるのは10人に1人しかいません。

家族と暮らす全国の18歳以上の子どもたちのように、栄光園でも大学や短期大学、専門学校に進んで学びたいと望む子どもたちが増えていきます。夢を実現しようとアルバイトをしながら大学に通つた子どももいました。けれ

どもその多くは学業と厳しい仕事の両立に苦しみ、途中で大学をあきらめるしかありませんでした。

18歳になると、社会に出る準備をあと少し栄光園でしたいと思つても国の制度により、国や県からの支援が受けられなくなり、保護者や親戚などからの援助も奨学金も受けられない中で、生活の不安がどんどん膨らんでいきます。職員たちの中にも親の気持ちになつて子どもたちを心配し、経済的な支援をしてきた者もおりましたが、進学を希望する子どもたちが増えてきたため、少人数の善意では追いつかなくなつてきております。

栄光園の自立進学資金は栄光園から社会へ巣立つていくために、暮らしが守られ、学びが続けられ、子どもたちが自分の生きる道に希望の光が見出せるようにと祈りを込めて設立しました。皆さまの子どもたちへの愛は、子どもたちの心の中で、自分の人生を生きぬく勇氣になつていくと信じています。どうぞご協力お願いいたします。

社会福祉法人 栄光園

2014年度10~12月職員の動静

採用

11月1日付採用
● 青山保育所
池田 里奈(保育士パート)

退職

12月31日付退職
● 乳児院
衛藤 美央(調理員等)

賛助会員募集

年会費、一口1000円、但し、何口でも、分割も可。ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌『栄光園だより』を送付させていただきます。



苦情等相談窓口

法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel. 0977-23-2827
fax. 0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員の励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。皆様の上に神様の豊かな祝福がありますようお祈りいたしております。

【2014年10月1日より2014年12月31日まで】

2014年 賛助金

- 安部 保様 別府市
- 新江 基二様 横濱市
- 伊勢 方信様 別府市
- 宇戸美和子様 大分市
- 角田 三日子様 大分市
- 川村 隼秋様 熊本市
- 北九州復興教会様 北九州市
- 南コウワ精起様 東京都
- 貞閑 孝也様 大分市
- 袖淵三枝子様 中津市
- 匿名様 別府市
- ななせ総合事務所様 大分市
- 橋迫 民子様 白杵市
- 古川 恵子様 大分市
- 別府不老町教会婦人会様 別府市
- 松本 常圃様 別府市
- 水谷 愛子様 中津市
- 宮沢 淑子様 大分市
- 宮本 妙子様 別府市
- 門司教会様 別府市
- 矢永 尚士様 北九州市
- 匿名様 別府市
- 山口産業(株)様 中津市
- 渡辺 順子様 別府市
- 伊藤 幸子様 別府市
- 安東 秀典様 大分市

2014年 一般寄付

- 井上せつ子様 大分市
- 内田千香子様 別府市
- 大宮遊技場組合様 さいたま市
- お話しボランティア様 中津市
- 亀井 浩様 別府市
- 吉良 頌三様 別府市
- Christian Fellowship 様 大分市
- ケイヘアー様 大分市
- 佐藤産婦人科医院様 豊後大野市
- 佐保会大分支部様 大分市
- 三栄会様 大分市
- (株)三栄建設工業様 大分市
- 申 ジエ様 東京都
- 高木 政嗣様 別府市
- 伊達直人を尊敬するサンタ様 別府市
- (有)ちはらコーポレーション様 別府市
- 匿名様 別府市
- 匿名様 別府市
- 友永 丈一様 別府市
- 南光物産(株)様 別府市
- 日本競輪選手会大分支部様 別府市
- 別府教会教会学校様 別府市
- 別府不老町教会様 別府市
- 別府溝部学園短期大学幼児教育学科様 別府市
- 松本小児科医院様 別府市
- 森分尚樹・美和子様 別府市
- 匿名様 別府市

2014年 自立進学資金

- 匿名様 白杵市
- 匿名様 別府市
- 神鳥 慶子様 杵築市
- みらい信金同友会鶴見・扇山支部様 別府市

2014年 特別物品寄付

- 衣類 赤尾信哉様
- 衣類多量 芦刈和夫様
- クリスマスケーキ 安部純子様
- クリスマスケーキ 石村萬盛堂高城店様
- バスタオル 岩永敏治様
- お餅・お菓子・ティッシュ等 ヴィーナスギャラリイ別府店様
- 果物 上杉敬三様
- お米 釜口成男様

- 英語カルタ・CD SBI子ども希望財団様
- 秋刀魚多量 M&Mスタジオ渡辺貞夫様
- 梨多量 大分県梨研究会様
- 米多量 大分県農業共済組合様
- トマトツリー カゴメ(株)様
- 生花 亀井 浩様
- 七五三記念写真 木村写真場様
- カレンダー多数 九州自然動物公園アフリカンサファリ様
- クリスマスプレゼント 釘宮英子様
- 衣類・玩具・クリスマスケーキ 工藤智美様
- パン多量 ココラート様
- 衣類 財前幸子様
- 書籍 佐藤武男様
- お菓子児童分 三栄建設工業(株)様
- おもちゃ多数 ジャック・デッドワイラー様
- 果物・野菜等 首藤一夫・サチ子様
- お餅 上人OBソフトクラブ有志会様
- お菓子・果物等 杉町圭蔵・千穂子様
- クリスマスケーキ (有)TN保険ひろば様
- スポーツ用品等 投資家テスタ2号様
- 石鹸多量 友永丈一様
- お菓子・ランドセル DreamCatcher 様
- お花の苗 中島生花店様
- 衣類・洗剤・文具等 中村里子様
- 鏡餅 日本鏡餅組合様
- お菓子児童分 日本競輪選手会大分支部様
- 炊飯器等 野口克子様
- 食品・飲料水等 板井由香様
- 祝箸 (有)はしふく様
- 野菜・果物・お菓子等
- フルゴスペルイエスキリスト教会様
- 映画DVD プレナス(株)ほっともっと様
- お餅 別府本町餅つき大会様
- お餅つき用材料・果物等 別府ライオンズクラブ様
- 花の苗・お菓子等 別府ライオンズクラブ様
- クラシックプローチ 森分尚樹・美和子様
- お菓子・パン等 山口 香様
- 生活用品 山口洋子様
- クリスマスプレゼント 楽天様
- お餅・カレンダー等 陸上自衛隊別府駐屯地様
- 書籍 労働金庫様

2014年 改築寄付

別府不老町教会様 別府市

2014年 招待・奉仕

- 小・中学習指導 安東秀典・井上せつ子様
- 七五三着付け エッチ美容室様
- クリスマスツリー点灯式
- (株)おおいた観光サービスマスター 児童達との交流会 尾上部屋閑東後援会様
- 絵本読み聞かせ等 お話しボランティア様
- 城島招待 大分県アミューズメント事業者協会様
- 七五三写真撮影 木村写真場様
- 児童のヘアークット ケイヘアー様
- お餅つき 上人OBソフトクラブ有志会様
- 竹細工製作体験 別府北ロータリークラブ様
- 竹細工指導 別府竹製品協同組合様
- お餅つき・お餅 別府ライオンズクラブ様
- ミュージックカーニバル招待 別府ライオンズクラブ様
- 渡辺貞夫コンサート招待 山口産業(株)様
- お餅つき・音楽演奏 陸上自衛隊別府駐屯地様

編集後記

クリスマスを祝うアドベントの頃より寒波厳しい師走となりました。今年も栄光園は事業開始後62回目のクリスマスとが得意心から感謝いたしております。クリスマス・歳の瀬・年越しの雰囲気は家庭に近い環境のホームですから大変暖かい雰囲気です。お正月に帰省できる先のない子どもたちの寂しさは職員では代わりようがありません。人の世は移ろいますが、どんな時にも神様が私たちを愛してくださっているという思いに満たされた自己肯定観へ辿り着きたいと願う年末年始です。(敏)

【訂正とお詫び】
前号(97号)にて、招待・奉仕に掲載のお名前が村津忠久様となっていました。正しくは村津孝仁様です。訂正してお詫び申し上げます。